

町田市民文学館のあり方見直しの検討状況について (中間報告)

町田市民文学館（以下、「文学館」という。）は、「町田市5ヵ年計画17-21（行政経営改革プラン）」において、2018年度までに「文学館の役割や存在意義を検討のうえ存廃を決定し、存続する場合は効率的・効果的な管理運営手法を検討し、方向性を決定」することとしています。

教育委員会では、2017年度から「生涯学習施設のあり方検討委員会」を発足し、文学館のあり方見直しの検討を重ね、今後の文学館のあり方について2018年7月24日に生涯学習審議会に諮問しましたので、これまでの検討状況を中間報告いたします。

【あり方見直しの方向性】

第1 市民参加型事業評価（2015年5月実施）に対する分析

1 評価及び指摘事項

要改善（限りなく廃止に近い）

- (1) 文学館の存在意義について再整理・検証すべき
- (2) 事業目的を達成するための適正な事業主体、効率的効果的な運営手法を検討すべき
- (3) 市民のニーズをもう一度検証すべき など

2 厳しい評価を受けた要因分析

(1) 市民目線の欠如

より多くの市民に文学館に興味関心を持ってもらうことができるかという視点で事業の見直しや改善に取り組むという姿勢が足りなかった。

(2) 情報発信不足

より多くの市民に文学館を知ってもらうために情報を発信していく努力が足りなかった。

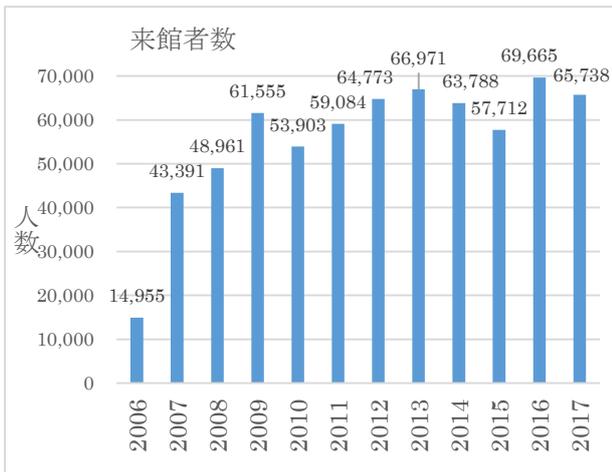
第2 これまでの文学館の実績

1 来館者数

2007年度は来館者が約4万人だったが、次第に増加し現在は6万人前後で推移している。

2 展覧会観覧者数

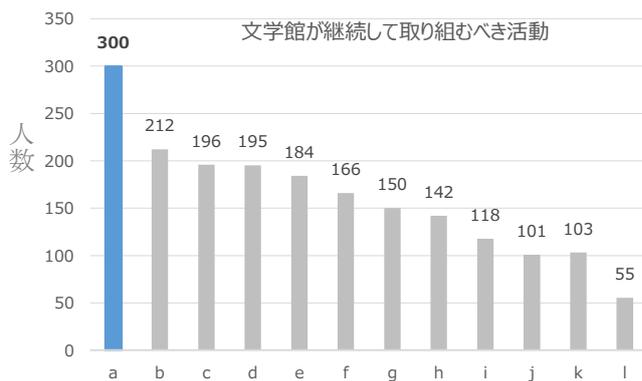
年間2万人前後で推移し、2016年度は、過去最高の30,469人となった。



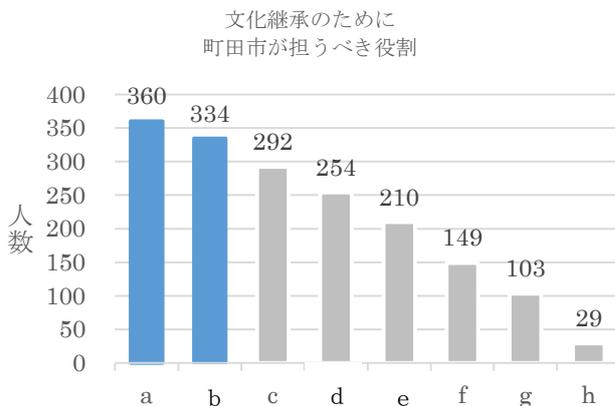
第3 文学館事業に対する市民ニーズ及び他市類似施設調査について

1 市民意識調査の結果に基づく分析

2017年度に生涯学習部が3,000人の市民を対象に市民意識調査を行った結果に基づき、文学館の分析を行った。



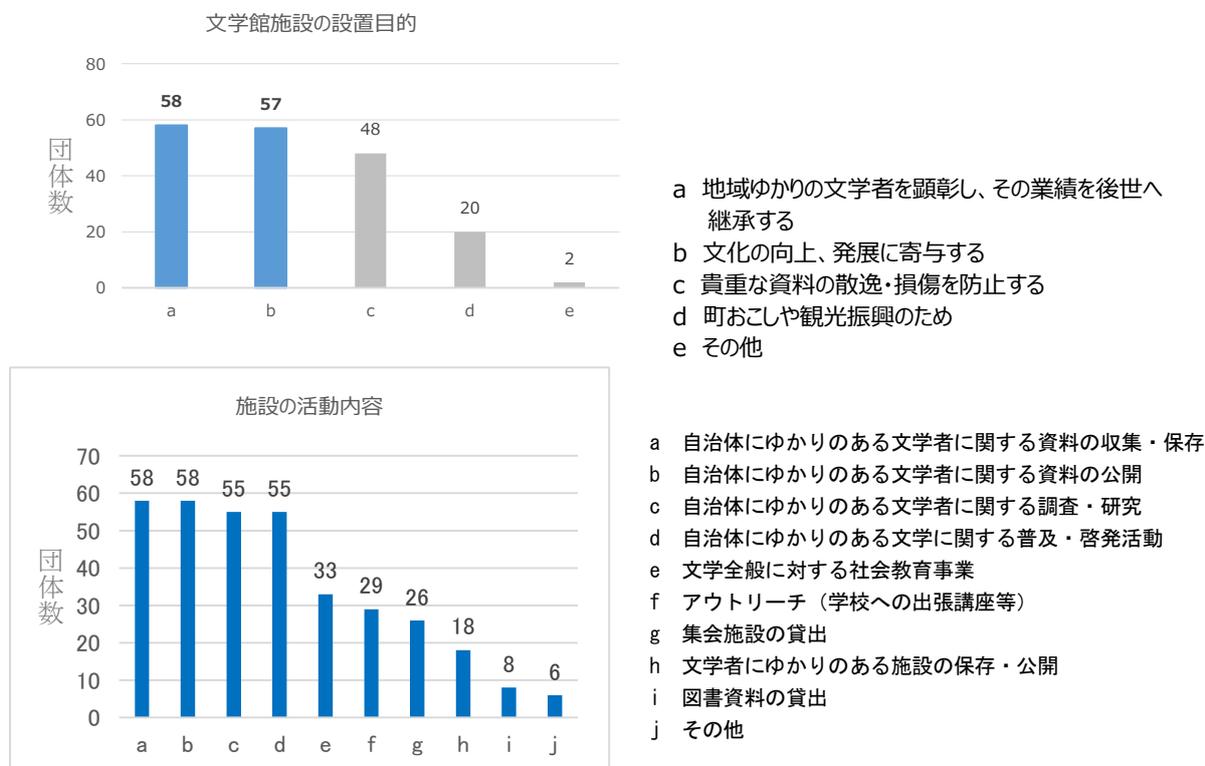
- a 町田ゆかりの作家の資料収集・保存・調査・研究
- b 図書の貸出
- c 町田ゆかりの作家に関する展覧会
- d 朗読・語り・おはなし会などのことばに関する事業
- e 講演会や文学講座など文学一般に関する教育普及活動
- f 町田ゆかりの作家に関する教育普及活動（講演会や文学講座）
- g サロン（喫茶）
- h 継続してほしい活動はない
- i 文学一般に関する展覧会
- j 文学一般に関する調査・研究
- k 会議室の貸出
- l その他



- a 文化都市としての町田を内外にアピールし、市のイメージアップを図る
- b 学校教育と連携し、子どもたちの国語力の向上に努める
- c ゆかり作家の資料の収集と保存
- d 文化施設を維持し、市外からの集客によりまちの活性化を図る
- e 若い世代の文学や読書への興味関心を喚起
- f 高齢者のための学習機会や場の提供
- g 担うべき役割なし
- h その他

2 他自治体及び全国の公設文学館施設の現状

2017年度に生涯学習部が近隣自治体55自治体、全国文学館協議会に加入している68団体を対象に文学館に関するアンケート調査を行った。



第4 文学館の存在意義

- (1) 文学館は、市民が文学に触れあうきっかけ、文学の扉となり、文学の力を市民に伝え、豊かな心を育む場所となる。
- (2) 町田ゆかりの文学者を顕彰することを通して、市民に町田市が文化的土壌の豊かな街であることを知ってもらい、街に対する誇りや郷土愛を醸成する。
- (3) 文学館は、市民が主体となって文学を学んだり研究したりする場となり、文学活動を通じた市民どうしの交流や楽しみの拠点となる。
- (4) 文学館は、これらの活動を通して町田の文化的イメージを向上させる文化装置となる。

第5 文学館の存廃について

次の事由を総合的に勘案すると文学館は目的及び事業とも市民ニーズに合致しており、行政の施策としても意義があると考えられる。

- (1) 市民意識調査の結果により、市民が町田ゆかりの文学者の顕彰等を通して、文学を基盤とした文化都市としてのまちづくりや子どもたちに対する教育・学習への波及効果を期待している。

- (2) 近隣自治体及び全国文学館協議会に加入している公設文学館に対するアンケート調査の結果によると、文学館を設置している多くの団体において、文学館が「地域に根差した文学・文化活動の拠点」としての役割を果たしている。
- (3) 文学館は、開館以来、年度により多少のばらつきはあるものの展覧会観覧者数、来館者数を右肩上がりに伸ばしてきた。
ワーク・ライフ・バランスという言葉が定着し、今後自らの生活を充実させるために文学館で活動する市民が増えていく可能性が高く、文学館の利用価値がより一層高まり、町田の文化的イメージの向上に貢献できる。
- (4) 子ども達は、文学作品に触れることを通じて、ことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、生きる力を身に付けていくことができる。文学館はこれまで乳幼児から小学生向けの学習事業に重点的に取り組んできており、子ども達の感受性を育む役割を担っている。

第6 事業及び施設の見直し

1 事業の見直し

認知度・利用度を高めるために次のことに取り組む。

- (1) シティプロモーションの推進
- (2) 中高生から20歳代の若い世代を対象とした事業の充実
- (3) 「柔軟で質（クオリティ）の高い文学館」を目指した事業展開
- (4) 中心市街地の賑わいを創出するために市民とともに事業を行うなど市民協働による取組

2 公共施設再編を見据えた施設の見直し

建物の耐用年数（2038年）を踏まえ、次のとおり検討する。

- (1) 中・長期的な方向性
施設機能の集約や複合化については、他部署や他施設を含めて検討する。
- (2) 短期的な方向性
展示設備や収蔵庫を最大限に有効活用し現有施設で文学館事業を継続する。その間の管理運営については効率的・効果的な運営手法を取り入れることとし、施設管理及び一部事業について、指定管理者制度の導入を含め検討する。

【これまでの経過】

- | | | | |
|-------|----|---------|--------------------|
| 2016年 | 8月 | 生涯学習審議会 | 「今後の生涯学習施策の進め方」諮問 |
| 2018年 | 3月 | 生涯学習審議会 | 答申 |
| | 7月 | 生涯学習審議会 | 「今後の町田市民文学館のあり方」諮問 |

【今後のスケジュール】

- | | | | |
|-------|-----|---------|------------|
| 2018年 | 10月 | 生涯学習審議会 | 答申 |
| | 12月 | 議会常任委員会 | 報告（審議会の答申） |
| 2019年 | 2月 | 教育委員会 | 意思決定 |
| | 3月 | 議会常任委員会 | 報告（見直し方針） |